

# インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) レイタクダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) ナカジマ
麗澤大学	経済学部	中島ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) ナカジファイナンス	フリガナ) カナイ リコ	4	無	
ナカジファイナンス	金井 梨瑚			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

調査のため使用したアンケート (麗澤大学内・Google フォーム) スライドに掲載

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

## 研究テーマ (発表タイトル)

I WALK 歩いて始める資産運用

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要 (目的・狙いなど)

若者へ向けた投資へのきっかけづくりのために、全く新しい投資の仕組みを提案する。その仕組みとは、「歩いた分だけポイントが貯まり、そのポイントで投資を行うことが出来る株式投資の仕組み」である。この仕組みを我々は「I WALK」と名付けた。

I WALKとは、歩いた歩数に応じてポイントが付与され、そのポイントで株式投資を行うことが出来る。1ポイントを1円換算として1000ポイント貯まると投資が可能となる。これは、株式の小額投資であり、また定額投資となる。こうした定額投資のサービスを行っている証券会社との連携を行って、株式投資を行うことが出来るようにする。

若者にとって身近な存在であり、若者を問わず多くの方々の間で今や生活に欠かせない存在となっているスマートフォン。その「アプリケーション」を利用することに加えて、投資を始めやすい「小額投資」という形によって、投資へのハードルを下げる。この強みを生かして若者をターゲットとした多くの方に利用してもらうことで投資を始める「きっかけ」が生まれる。さらに、投資の知識・意欲・魅力を利用者へ届けることで、利用者は投資に対する正しいノウハウを得ることが出来る。結果として、将来の本格的な投資家の育成にもつながることが予想され、日本全体にとってより効率の良い資産運用の形が広まっていくことが期待できる。

多くのデータから現状分析を行い、また 250 名以上の多くの方々にアンケート調査を実施してリアルな意見を参考にしながら今回の提案に関して繰り返し内容を練り上げて向上させてきた。

このような全く新しい投資の形「I WALK」の提案・研究成果を発表する。

## 歩くことが投資への“きっかけ”に



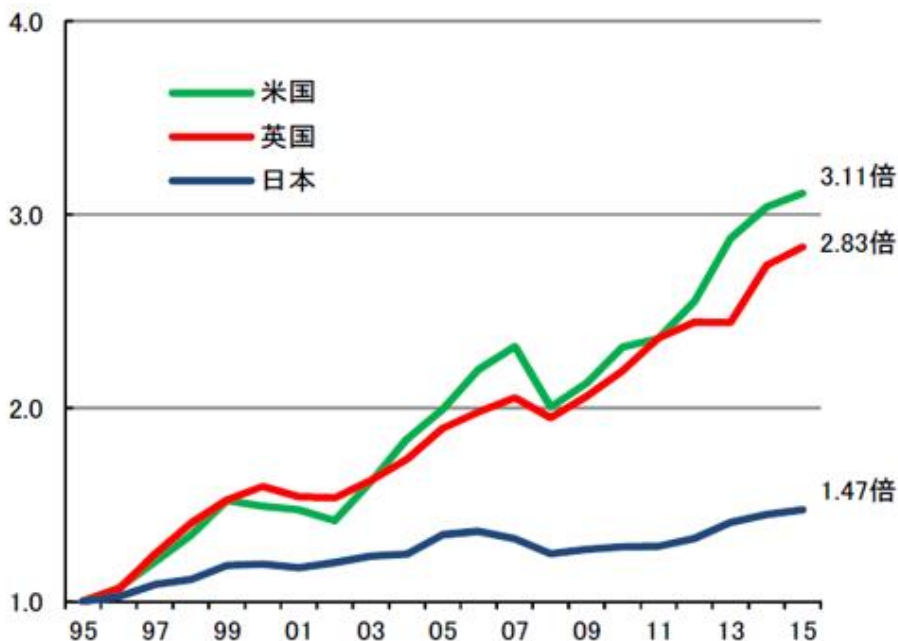
①私は歩く ②投資 = Investment

### 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

日本の資産運用の現状に関して現状分析を行う。まず、日本、米国、英国の金融資産の推移を分析すると、1995 年から 2015 年にかけて、英国は金融資産を 2.83 倍に増やしている。また、米国はさらに高い、3.11 倍に増やしている。これに対して日本の場合には、同じ時期に 1.47 倍にしか増えておらず、他国と比べて金融資産の増え方が少ないのがわかる（図表 1）。

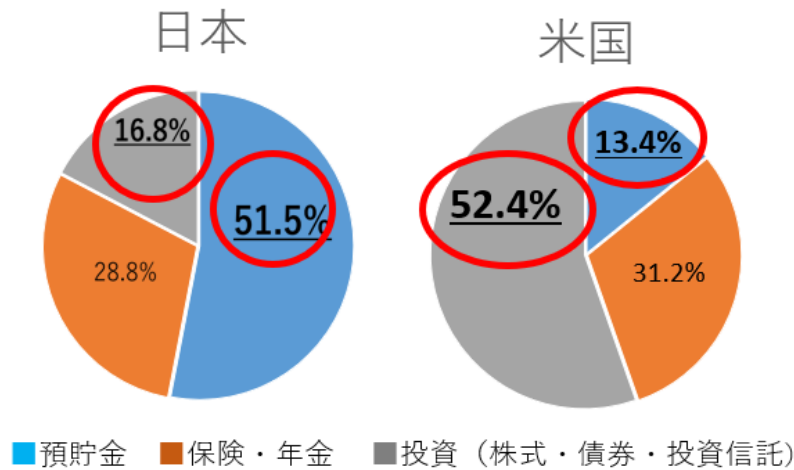
その原因のキーワードとして考えられるのが、今回の我々のキーワードでもある「投資」である。それを示すデータとして、日本と米国の個人金融資産の構成比をみる。日本は全体の 51.5%が預貯金となっているのに対し、米国は預貯金のウエイトは全体の 13.4%にすぎない。一方、投資の割合については、日本は全体の 16.8%しか株式、債券、投資信託などへの投資に向けていないが、米国は全体の 52.4%もの割合で投資に回っている。こうしたデータから、家計の資産運用の違いにより、金融資産の増加ペースに大きな違いが出ていることが分かる（図表 2）

図表 1：各国の家計金融資産の推移



(注)95年=1として指数化。  
(資料)FRB、BOE、日本銀行資料より、金融庁作成。

図表 2：個人金融資産の構成比率



出所：日本銀行「資金循環日米比較レポート」平成27年 3

### 3. 研究テーマの課題

日本での投資を行っている人の世代別内訳をみていく。金融広報中央委員会が平成 27 年におこなった、「家計の金融行動に関する世論調査」の調査結果から、日本は全体として圧倒的に預貯金の割合が高いが、世代別にみても、どの世代においても貯金に回している割合が高い。だが、年齢層が上がっていくにつれて投資をしている人の割合が高くなっているという特徴がある。20代では投資の割合は全体の10%にも満たないが、60歳代では約30%が投資に向けられている。このことから、日本全体の投資不足の中でも、若者の投資不足が深刻な問題となっていることが分かる。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

若者の投資不足を解決する有効な手段として、我々が提案する「I WALK」が手段として挙げることが出来る。歩いてポイントを貯めて、実際に株を購入できるという仕組みになる。その結果として、値上がり益や配当を受け取ることが出来る。このようなステップを踏むことで「投資っておもしろい」と投資の初心者であっても、投資の魅力をしっかりと感じる事ができるであろう。そのため、結果として、投資不足を解決する有効な手段となることが考えられる。

### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

我々は、「I WALK」に関する若者へ向けた調査として、麗澤大学で行ったアンケート調査と Google フォームを利用したウェブ上でのアンケート調査とを合わせて、計 274 名の方々へ調査を行った。

I WALK の説明を行ったうえで、「I WALK を始めてみたいですか？」という質問に対して、85%もの人が「はい」と回答する結果が出た。このことから若者が、歩いて貯めたポイントで株を買うという仕組みに対して、高い期待を持っていることがよくわかる結果となった。また、「I WALK を始めてみたい理由」としては、「ポイントなら始めてみたい」が 40%を占め、「仕組みが楽しそう」が 31%、「きっかけになる」が 15%であった。このことから、ポイントを使った株式投資により、I WALK 独自のきっかけ作りを行うことが可能であり、楽しんで株式投資を始めるものとみられる。

### 6. 結果や今後の取り組み

今回の企画考案をきっかけにして、実際に実現が可能となるように、今後も研究、調査を進めていくこととする。

また、実際に某証券会社社長の方からも、今回の企画に対して「目のつけどころがイイ」というコメントを頂戴して評価を頂いた。

## 7. 参考文献

### <参考文献>

- ・中島真志 (2015)『入門企業金融論』東洋経済新報社
- ・中島真志/島村高嘉 (2017)『第30版 金融読本』東洋経済新報社

### <参考ウェブサイト>

- ・金融庁 HP

<https://www.fsa.go.jp/>

- ・日本銀行 HP

<http://www.boj.or.jp/>

- ・One Tap BUY HP

<https://www.onetapbuy.co.jp/>

- ・Cash Walk

<https://goo.gl/g6HCQo>

- ・金融広報中央委員会

<https://www.shiruporuto.jp/public/>

- ・モーニングスターHP

<https://www.morningstar.co.jp/>

- ・Crypto Compare

<https://www.cryptocompare.com/>

- ・ガベージニュース

<http://www.garbage news.net/>

- ・ふじこりあ 韓国メモ

<https://www.fujikorea.net>

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経BPマーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1〜7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

---

↑ **ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください**